

結実状況にあわせて、早めに摘果を！
「6月中旬」の薬剤散布は6月15～16日頃!!
雪害樹の適切な管理を!!!

I 概 要

6月1日現在の果実肥大は、各品種とも概ね平年を上回っている。

近年、成らせすぎ等による隔年結果が見られている。仕上げ摘果は、良品生産や充実した花芽形成のため、できるだけ早く行う。

本年は園地によりふじの中心果の結実にバラツキが見られるので、着果状況を確認して摘果を行う。

- ・着果量が十分な場合は、品種別の標準的な着果程度を目安に行う。
- ・着果量が不足している場合は、樹勢が強くなることがあるので、調節のために発育や形の悪い果実でも残すようにする。中心果だけで標準的な着果程度を確保できない場合は、側果も利用する。

「6月中旬」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で6月15～16日頃に実施する。散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

腐らん病の処置が遅れているので、すみやかに切り取りや治療を行う。

雪害樹は樹勢が強くなりやすいので、摘果、徒長枝の整理、ビターピット対策など適切な管理を行う。

報道機関用提供資料	
担 当 課	農林水産部りんご果樹課
担 当 者	生産振興グループ GM 工藤 秀樹
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5146
報 道 監	農林水産部 次長 栗林 豊 内線 4967

Ⅱ りんご生産情報

1 果実肥大、結実状況、作業の進み、病害虫の動き

(1) 果実肥大

各品種とも果実肥大は概ね平年を上回っている。

○果実肥大

(6月1日現在、横径cm、平年比%)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	2.2	2.4	2.0
	平 年	1.9	2.0	1.6
	前 年	3.0	3.1	2.5
	平年比	116	120	125
青森市浪岡北中野 (東青農林水産事務所)	本 年	2.0	－	1.3
	平 年	1.8	－	1.5
	前 年	2.4	－	2.3
	平年比	113		90
弘前市独狐 (中南農林水産事務所)	本 年	2.2	2.3	2.0
	平 年	1.9	1.8	1.4
	前 年	3.0	2.8	2.5
	平年比	116	128	143
板柳町五幾形 (西北農林水産事務所)	本 年	2.0	－	1.7
	平 年	1.8	－	1.5
	前 年	2.6	－	2.3
	平年比	111		113
三戸町梅内 (三八農林水産事務所)	本 年	2.3	－	2.0
	平 年	1.7	－	1.5
	前 年	3.0	－	2.6
	平年比	135	－	133

注) 各農林水産事務所のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) 結実状況

園地によりふじの中心果の結実にバラツキが見られる。

(3) 作業等の進み(6月2日現在)

王林、つがる等の一つ成り摘果が行われている。

(4) 病害虫の動き

(6月2日現在 りんご研究所)

腐らん病	摘果後の果柄感染継続中
黒星病	葉・果実とも分生子による2次感染継続中 感染危険度は農なび青森 (https://www.nounavi-aomori.jp) に掲載中 殺菌剤無散布の県予察圃での新梢葉発病葉率(ふじ) (5月29日 本年:31.7%、平年:19.9%)
斑点落葉病	まもなく葉の病斑がみられる(平年:6月24日)
褐斑病	葉の病斑初発(本年:5月30日、平年:6月16日)
ハダニ類	卵～成虫が混在、幼虫～成虫が葉を加害中
リンゴコカクモンハマキ	越冬世代成虫羽化初発日 平年:6月2日
モモシンクイガ	越冬世代成虫羽化初発日 平年:5月27日
ナシヒメシンクイ	第一世代成虫羽化初発日 平年:6月2日
キンモンホソガ	老齢幼虫主体(第1世代成虫羽化50%日 平年:6月17日)
クワコナカイガラムシ	まもなく越冬世代幼虫の移動が終息するとみられる(越冬世代幼虫移動終息日 平年:5月30日)

※調査園地にコンフューザーRが設置されており、対象害虫の羽化初発日を確認できないことから、リンゴコカクモンハマキ、モモシンクイガ、ナシヒメシンクイは平年値のみ示す。

2 作業の重点

(1) 摘果

近年、成らせすぎや摘果の遅れによる隔年結果が見られている。仕上げ摘果は、良品生産や充実した花芽形成のため、できるだけ早く行う。

本年は園地によりふじの中心果の結実にバラツキが見られるので、着果状況を確認しながら、以下のように摘果を行う。

ア 着果量が十分な場合

下表の「品種別の標準的な着果程度」を目安に摘果を行う。葉が多く付いた果そうになった果実で、つる(果柄)が太く長く、肥大が良好で形の良いものを残す。枝の下面に成った果実や、逆さ実、果台が長い果実(ふじではおよそ2cm以上)はできるだけ摘み取る。

イ 着果量が不足している場合

中心果だけで標準的な着果程度を確保できない場合は、側果も利用する。雪害で枝量が少なくなった樹や結実不良により着果量が不足している樹は、樹勢が強くなることがあるので、調節のために発育や形の悪い果実でも残すようにする。ただし、隔年結果を避けるため、過度に成らせないように注意する。

品種別の標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ (残す果実)
紅玉	3 頂芽に 1 果
つがる・ジョナゴールド	3.5 頂芽に 1 果
ふじ・王林・早生ふじ・トキ・シナノゴールド・きおう・金星・シナノスイート・未希ライフ・ぐんま名月・さんさ・星の金貨・千雪・夏緑・恋空・祝・花祝・紅はつみ・秋陽・はるか	4 頂芽に 1 果
北斗	4.5 頂芽に 1 果
陸奥・世界一	5 頂芽に 1 果

(2) 「6 月中旬」の薬剤散布

「6 月中旬」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で 6 月 15～16 日頃に実施する。

地域や天候によっては散布時期が異なるので、前回の散布日や気象情報を参考にする。

この時期からモモシンクイガの防除剤を毎回使用する。

散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

「6 月中旬」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石	6 月15～16日頃	炭酸カルシウム水和剤	100倍
弘前		アントラコール顆粒水和剤	500倍
三戸		又はパスポート顆粒水和剤	1,000倍
		又はラビライト水和剤	500倍
		又はチウラム剤	500倍
		〔チオノックフロアブル トレノックスフロアブル〕	
		又は有機銅剤	
		〔キノンドー顆粒水和剤 1,000倍〕	
		〔オキシンドー水和剤80 1,200倍〕	

輪紋病のいぼ皮病斑が多発している園地では、有機銅剤を選択する。

炭疽病の発生が例年多い園地や高温多湿条件が続いて多発が懸念される場合は、パスポート顆粒水和剤、ラビライト水和剤、有機銅剤のいずれかを選択する。

(3) 腐らん病対策

摘果後のつる（果柄）から侵入・感染するので、果台につるが残らないようにする。腐らん病の発生が多い園地では、果柄感染を防ぐため、「6月中旬」にラビライト水和剤500倍を選択する。

本年も発生が多く、枝腐らん・胴腐らんの処置が遅れている。枝腐らん・胴腐らんに放置すると伝染源となるので、すみやかに以下の処置を行う。

枝腐らんは、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

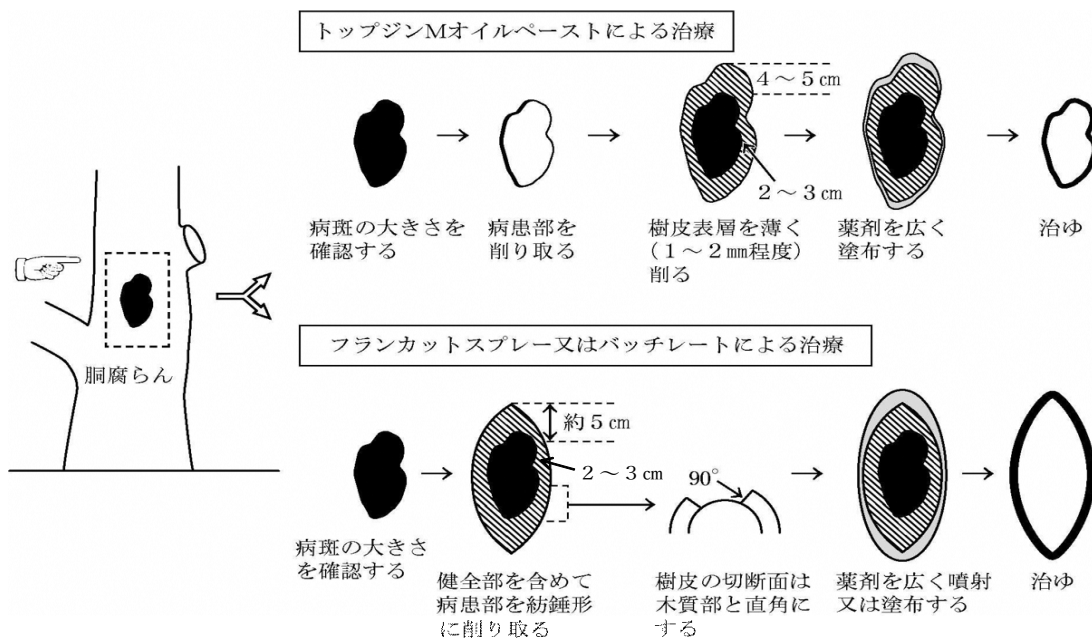
胴腐らんは、再発病斑を含め、見つけ次第治療する。

ア トップジンMオイルペースト、フランカックスプレー又はバッチレートを使う場合は、下図のとおり薬剤ごとに適切な方法で処置を行う。

イ 泥巻きを行う場合は、水を加えて団子状にこねた泥を病斑部よりも5～6 cm 広めに、3～5 cmの厚さに貼り付ける。さらにその上をビニール又はポリエチレンフィルムなどで被覆し、内部の泥の乾燥を防ぐようにして約1年間そのままにしておく。病斑部を軽く削り取ってから泥巻きを行うと一層効果的である。

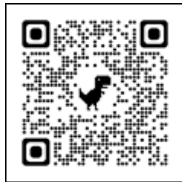
なお、火山灰土壌を使用する場合は、容積比で土が9に対してベントナイト（土壌改良資材の一種）1を加えてこねると粘着性が増し、泥巻き作業の効率が良くなる。泥を作るには、土とベントナイトをよく混ぜてから水を入れて練る。この際、ベントナイトは量が多すぎると樹皮が腐敗し、治ゆ効果も低下するので、加える量を誤らないようにする。

ウ 胴腐らんの発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採する。

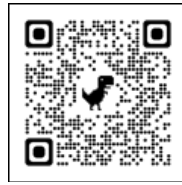


削り取り法による胴腐らん治療の作業手順

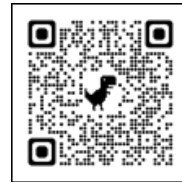
なお、処置方法については、青森県産業技術センターのYoutube公式チャンネルに掲載している。（<https://www.youtube.com/@aitcofficial/videos>）



二次元コード1
：トップジンM
オイルペースト



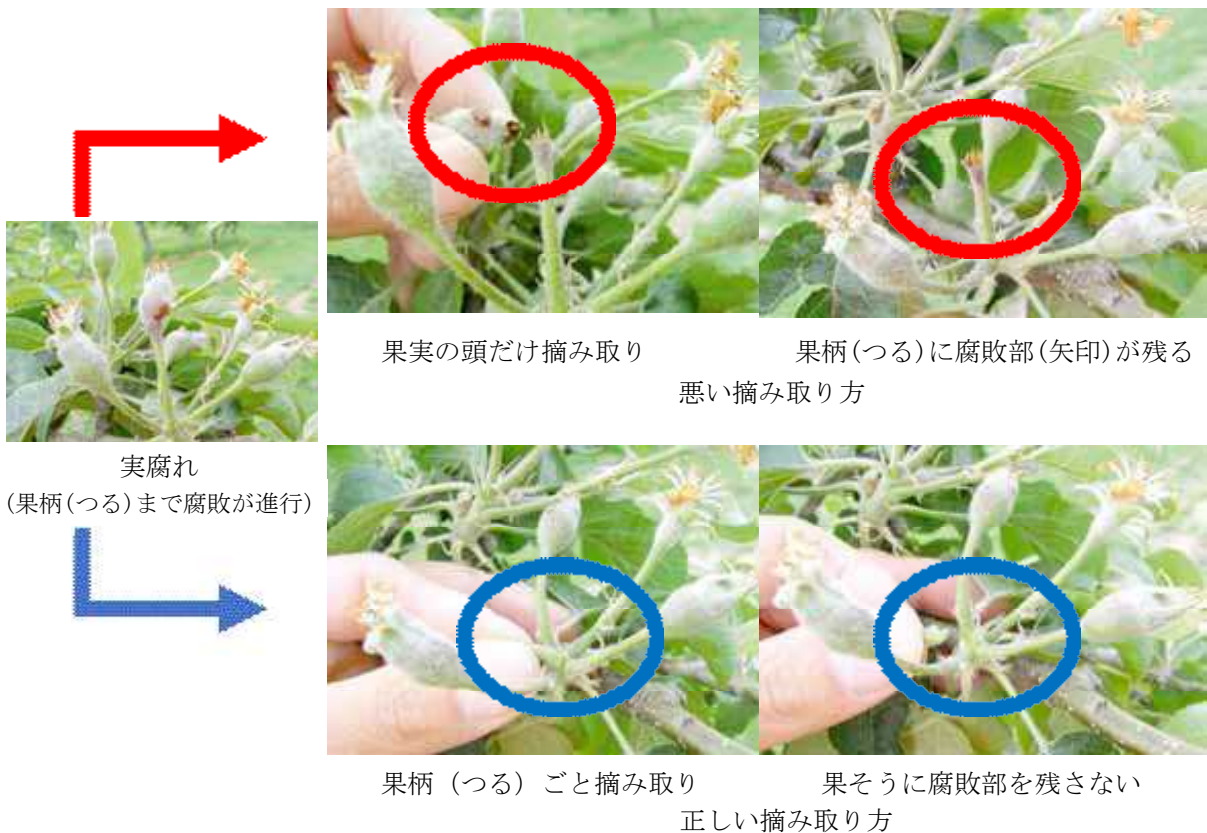
二次元コード2
：パッチレート



二次元コード3
：泥巻き法

(4) モニリア病対策

実腐れ、株腐れは、見つけ次第摘み取り、適切に処分する。



モニリア病の実腐れの摘み取り方

(5) 黒星病対策

発病葉、発病果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(6) 輪紋病対策

枝幹上のいば皮病斑が伝染源となるので、削り取ってトップジンMペーストを塗る。削り取りができない細い枝は、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

いば皮病斑が多発している園地では、「6月中旬」に有機銅剤（キノンドー顆粒水和剤1,000倍又はオキシンドー水和剤80 1,200倍）を選択する。

(7) うどんこ病対策

伝染源の密度を下げるため、白い粉状の分生子に覆われた被害果そう・葉そうは、見つけ次第、枝ごと摘み取り、適切に処分する。

(8) 炭疽病対策

発生が多い所や多発が懸念される場合は、「6月中旬」にパスポート顆粒水和剤1,000倍、ラビライト水和剤500倍、有機銅剤（キノンドー顆粒水和剤1,000倍又はオキシンドー水和剤80 1,200倍）のいずれかを選択する。

伝染源となるニセアカシアやくるみ類などは、りんご園の周りから取り除く。

(9) 有袋栽培におけるすす斑病対策

袋かけ前の薬剤散布が特に重要なので、散布間隔をあけ過ぎないようにし、果実にも薬液が十分付着するようにする。薬剤散布後5日以内を目安に袋かけを行い、その後も袋かけを継続する場合は、次の定期散布までの間に、有効な薬剤による特別散布（実洗い）をしてから行う。

(10) シンクイムシ類対策

モモシンクイガ対策として6月中旬から毎回防除剤を使用する。

コンフューザーRの設置がまだ終わっていない園地ではすみやかに設置する。

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源になるので、適切な管理を行う。

(11) ハダニ類対策

発生動向を見極めながら適正な防除を行う。散布の目安は1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは合わせて年1回の使用とする。

ダニオーテフロアブルは銅剤（有機銅剤及びオキシラン水和剤）と混用しない。銅剤を散布した後は使用しない。また、散布後に銅剤を使用する場合は10日以上散布間隔をあける。

コロマイト乳剤は、6月下旬までの使用を避ける。

オマイト水和剤は、7月下旬までの使用を避ける。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬剤名	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
カネマイトフロアブル	1回	×	○
エコマイト顆粒水和剤	1回	○	×
マイトコーネフロアブル	1回	×	○
ダニサラバフロアブル	2回以内	○	×
スターマイトフロアブル	1回	○	×
ダニコングフロアブル	1回	○	×
ダニオーテフロアブル	1回	○	○

○：効果が高い、×：効果が低い

(12) ふじ・早生ふじのつる割れ軽減対策（ヒオモン水溶剤の利用方法）

例年、発生が多い園地では、ヒオモン水溶剤3,000倍を満開20～30日後に散布することで発生を軽減できる。使用に当たっては次のことに留意する。

ア 単用散布とする。

イ 散布後に葉がしおれる症状を示すが、1週間後頃にはほぼ回復する。

ウ 高温・乾燥時の散布は避ける。新梢先端葉及び樹冠内の果そう葉の黄変落葉や頂芽の欠落が発生した事例がある。

エ 極端に樹勢の弱い樹への散布はさける。

オ 果実肥大が抑制される場合がある。

カ 新梢の二次伸長を助長する場合がある。

キ 摘果剤（ミクロデナポン水和剤85）を散布した後に本剤を使用した場合、摘果剤の効果が抑制される。

(13) 袋かけ

ふじは有袋にすることで、つる割れの軽減や着色の向上、収穫期の分散ができるほか、販売戦略上も重要なため、個別の労働事情を考慮し、有袋栽培に取り組む。

袋かけは7月10日頃までに終えるようにする。

有袋栽培では、すす斑病やクワコナカイガラムシの防除対策を徹底する。

(14) ビターピット防止対策

例年よりも樹勢が強いとみられる場合や、幼果期（6月）の少雨、夏期の高温が予想される場合は、下表によりカルシウム剤を直接果実に付着するように散布する。

樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には薬害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水100ℓ当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

(15) 乾燥対策

苗木や若木は乾燥の影響を受け易いので、園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満）が2週間程度続いたら、1㎡当たり20ℓ程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(16) 縮果病（ホウ素欠乏）対策

欠乏症状が見られたら、直ちにソリボー（葉面散布用ホウ酸塩肥料）を1,000倍（水100ℓ当たり100g）の濃度で7～10日おきに2回散布する。

(17) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

欠乏症状が見られたら、葉面散布用の硫酸マグネシウムを1～2回散布する。散布間隔は7～10日あける。

苦土欠乏は土壌の酸性化が原因なので、あらかじめ土壌診断を行い、自園の状況を把握する。

（分析の依頼先：J A全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJ A等）

硫酸マグネシウムの使用方法

資材名	マグネシウム含有量	水100ℓ当たり使用量 (倍数)	
		5月末まで	6月以降
グリーントップ	16%	1,500 g (67倍)	2,000 g (50倍)
グリーントップ70	23%	1,000 g (100倍)	1,400 g (71倍)

(18) 雪害樹の管理

ア 徒長枝管理

枝の欠損が大きい樹では、樹勢が強くなり、徒長枝が増える場合があるので、そのような場合は、徒長枝整理の時期を早める。

イ ビターピット対策

雪害の影響で例年よりも樹勢が強い場合は、ビターピットが多くなるのが懸念されるので、適宜、対策を講じる。

※ (14) ビターピット防止対策：カルシウム剤の散布方法参照

ウ 接ぎ木後に伸びた新梢の結束

接ぎ木や高接ぎ後に伸びた新梢は風で折れやすいので、添え木や支柱に結束する。

エ 新梢長穂接ぎによる側枝（結果母枝）の養成

樹形を損ねる被害を受けた樹では、徒長枝を利用したり、高接ぎなどで樹形の立て直しを図る。長穂接ぎの技術を利用して側枝（結果母枝）の養成をスムーズに行っている現地事例があるのでその技術を以下に紹介する。

穂木には今年伸びた新梢（緑枝）を使えるので、これからの時期でも実施できる。

ア) 穂木の選び方（新梢長穂接ぎ）

穂木には、伸長の止まっている新梢を使い、緑枝の部分を切除して木質化した部分を使う。葉柄に葉を少し残した状態で葉を切り取る（図1）。

イ) 接ぎ木の手順

穂木を削る際は、くさび形にし、中間台の皮部側に接する部分は長めになるように削る（図2）。

中間台の接ぎ木する部分をコの字型に切皮する。皮が厚い場合はナイフ等で上皮を削いでから行くと切皮しやすい（図3）。

穂木を中間台に挿し込み、コの字型の内側に穂木を固定する（図4）。

切口保護剤（カルスメイト）は、テープで縛ってから隙間を埋めるように塗る（図5）。

風による枝折れが心配な場合は、接ぎ木の翌年に接ぎ木部位の真ん中に釘を打って固定する。また穂木が風で揺れないようにひもで縛って固定する。

剪定は接ぎ木した枝に本格的に花芽が着生した年から行う。



図1 緑枝部分をカット、
葉を少し残し切除



図2 穂木の削り方



図3 コの字型に切皮



図4 穂木の挿し込み



図5 切口保護剤で隙間を埋める

※画像提供元：公益財団法人青森県りんご協会

3 その他一般作業

(1) 追肥 (2) 草刈り (3) ひこばえ、徒長枝の整理

4 今後の作業予定（6月26日～7月4日）

(1) 薬剤散布 (2) 摘果 (3) 袋かけ (4) 草刈り
 (5) ひこばえ、徒長枝の整理 (6) 高接ぎ樹の誘引及び捻枝
 (7) ビターピット防止対策 (8) マメコバチの巣箱回収

青森県農薬危害防止運動展開中（6月～8月）！

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 モモシンクイガ等防除のため、交信攪乱剤の積極的な利用を！ 》

交信攪乱剤（コンフューザーR）は、

- ①温暖化でモモシンクイガの被害が増えていること
- ②農薬の再評価制度に伴い、使用可能な殺虫剤が減少しつつあること
- ③薬剤抵抗性害虫が顕在化していること

などの理由により、令和6年からりんご病害虫防除暦の基準薬剤となりました。

ハマキムシ類やシンクイムシ類など複数の害虫への効果が期待できますので、ぜひ自園地へコンフューザーRを導入してください。

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

《 りんごの雪害を補償する「果樹共済」の加入申込が始まります!! 》

今冬の記録的な豪雪により、りんごの枝折れや幹割れ等が発生し、過去最大の被害となりました。

りんごの雪害を補償する「果樹共済」の総合一般方式と樹体共済の加入申込が、6月5日（木）から始まります（7月4日（金）まで）。

加入申込やご相談は、お近くの農業共済組合（本所・支所）をお願いします。

農作業安全を心がけましょう！

【第2回りんご等果樹生産技術研修会のお知らせ】

地域	時 期	場 所
津軽	6月12日（木）10:00～12:00	黒石市：（地独）青森県産業技術センター りんご研究所 研修館
県南	6月13日（金）10:30～12:00	五戸町：（地独）青森県産業技術センター りんご研究所 県南果樹部 研修館

次回の発行は令和7年6月25日（水）の予定です。